

【第1部】基礎（Q1～Q20）

置き字 Q1. 次の文の傍線部（置き字＝読まない字）の種類を、後のア～ウから選べ。

学^ビ而^テ時^ニ習^フ之^ヲ。

- ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える）
- イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す）
- ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）

置き字 Q2. 次の文の傍線部（置き字＝読まない字）の種類を、後のア～ウから選べ。

氷^ハ寒^シ於^{ヨリ}水^モ。

- ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える）
- イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す）
- ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）

置き字 Q3. 次の文の傍線部（置き字＝読まない字）の種類を、後のア～ウから選べ。

ズ
リ
レ
必有師焉。

ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える）

イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す）

ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）

置き字 Q4. 次の文の傍線部（置き字＝読まない字）の種類を、後のア～ウから選べ。

ニ
シ
テ
ッ
三十而立。

ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える）

イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す）

ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）

置き字 Q5. 次の文の傍線部（置き字＝読まない字）の種類を、後のア～ウから選べ。

ハ
シ
ヨ
リ
モ
ニ
一
玉貴於石。

ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える）

イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す）

ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）

置き字 Q6. 次の文の傍線部（置き字＝読まない字）の種類を、後のア～ウから選べ。

力^ハ拔^キ山^ヲ兮^レ。

ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える）

イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す）

ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）

置き字 Q7. 次の文の傍線部（置き字＝読まない字）の種類を、後のア～ウから選べ。

和^シ而^テ不^レ同^ゼ。

ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える）

イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す）

ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）

働き Q8. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

君子立^ハ於^ツ朝^ニ。

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

働き Q9. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

霜葉紅於二月花。
ハナリ
二
一

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

働き Q10. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

小人治於人。
タラル
二
一

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

置き字 Q11. 次の文の傍線部（置き字＝読まない字）の種類を、後のア～ウから選べ。

過而不改。
チテ
レ
メ

ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える）

イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す）

ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）

置き字 Q12. 次の文の傍線部（置き字＝読まない字）の種類を、後のア～ウから選べ。

苛政猛於虎。
ハナリ
ヨリモ

ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える）

イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す）

ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）

置き字 Q13. 次の文の傍線部（置き字＝読まない字）の種類を、後のア～ウから選べ。

死而後已。
シテ
ム

ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える）

イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す）

ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）

働き Q14. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

学於京。
ニ
ニ

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

働き Q15. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

二 海 深 於 河。
一

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

働き Q16. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

二 殺 於 賊。
一

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

置き字 Q17. 次の文の傍線部（置き字＝読まない字）の種類を、後のア～ウから選べ。

レ 是 謂 過 矣。
フ
チ
ト

ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える）

イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す）

ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）

働き Q18. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

二 用^{キラル}
於
一 君。

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

働き Q19. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

二 問^フ
於
一 師。

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

読み方 Q20. 傍線部の置き字の扱いとして正しいものを、後のア～ウから選べ。

春暖^{ハシテ}
而
花開^ク。

ア 読まない（置き字。前の語に「て・して」を添える）

イ 「なんぢ（お前）」と読む

ウ 「しかれども」と必ず声に出して読む

働き Q21. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

二
一
金堅於木。
ハ
シ
ヨ
リ
モ

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

働き Q22. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

レ
二
一
君子役物、小人役於物。
ハ
シ
ヲ
セ
ラ
ル
ニ

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

働き Q23. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

ニ 仕 一 於 齊。

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

働き Q24. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

ニ 泰 一 山 高 於 丘。

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

働き Q25. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

ニ 笑 一 於 人。

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

置き字 Q26. 次の文の傍線部（置き字＝読まない字）の種類を、後のア～ウから選べ。

メ
テ
キ
ヲ
レ
温故而知新。
レ
少
キ
ヲ

ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える）

イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す）

ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）

置き字 Q27. 次の文の傍線部（置き字＝読まない字）の種類を、後のア～ウから選べ。

シ
テ
ル
ト
ニ
一
レ
可
以
為
師
矣。

ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える）

イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す）

ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）

働き Q28. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

ル
ニ
一
隠
於
山。

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

働き Q29. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

命 ハシ
重 シ
於 ヨリ
泰 モ
山。
二
一

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

働き Q30. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

破 ラル
於 ニ
敵。
二
一

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

書き下し Q31. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

海 ハシ
深 シ
於 ヨリ
河。
二
一

ア 海は河に深し

イ 河は海よりも深し

ウ 海は河よりも深し

書き下し Q32. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

ニ 問 フ
於
一 師 ニ

ア 師より問ふ

イ 師に問ふ

ウ 師を問はる

書き下し Q33. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

レ スル
心 ヲ
者 ハ
治 メ
人、 ヲ
レ スル
力 ヲ
者 タ
治 ラル
於
一 人 ニ

ア 心を労する者は人に治められ、力を労する者は人を治む

イ 心を労する者は人を治め、力を労する者は人に治めらる

ウ 心を労する者は人より治め、力を労する者は人より治む

働き Q34. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

二 求 ム
於
一 己 ニ。

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

働き Q35. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

二 軽 シ
於
一 鴻 ヨリ
毛 モ。

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

働き Q36. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

二 制 セラル
於
一 人 ニ。

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

置き字 Q37. 次の文の傍線部（置き字＝読まない字）の種類を、後のア～ウから選べ。

敏^{ニシテ}而^ム好^ヲ学^レ。

ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える）

イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す）

ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）

置き字 Q38. 次の文の傍線部（置き字＝読まない字）の種類を、後のア～ウから選べ。

三人行^{ヘバ}、必^ズ有^リ我師^ガ焉^ニ。

ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える）

イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す）

ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）

読み方 Q39. 傍線部の置き字の扱いとして正しいものを、後のア～ウから選べ。

玉
美
於
石。
ハ
シ
ヨ
リ
モ

ア 「ああ」と詠嘆で読む

イ 「おいて」と必ず読む

ウ 読まない（置き字。下の名詞の送り仮名で示す）

書き下し Q40. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

石
堅
於
土。
ハ
シ
ヨ
リ
モ

ア 石は土に堅し

イ 石は土よりも堅し

ウ 土は石よりも堅し

働き Q41. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

告
於
君。
ニ
ニ

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

働き Q42. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

二 貴^シ
於^{ヨリ}
一 千^モ金。

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

働き Q43. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

二 欺^{カル}
於^ニ
一 友。

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

書き下し Q44. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

二 君^ハ
子^ツ
立^ニ
於^ニ
一 朝。

ア 君子は朝より立つ

イ 君子は朝に立つ

ウ 君子は朝に立たる

置き字 Q45. 次の文の傍線部（置き字＝読まない字）の種類を、後のア～ウから選べ。

良薬^{ケレドモ}苦^ニ於^一口^ニ而^{アリ}利^ニ於^一病^ニ。

ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える）

イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す）

ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）

働き Q46. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

始^{マル}於^ニ今日^一。

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

書き下し Q47. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

用^{キラル}於^ニ世^一。

ア 世を用ふ

イ 世より用ふ

ウ 世に用ゐらる

働き Q48. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

二
義重
於利。
一

ハ
シ
ヨリ
モ

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

読み方 Q49. 傍線部の置き字の扱いとして正しいものを、後のア～ウから選べ。

学
而
不厭。
レ

ビ
テ
ハ

ア 読まない（置き字。前の語に「て・して」を添える）

イ 「なんぢ（お前）」と読む

ウ 「しかれども」と必ず声に出して読む

置き字 Q50. 次の文の傍線部（置き字＝読まない字）の種類を、後のア～ウから選べ。

風蕭蕭兮
易水寒。
シ

ト
シ
テ

ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える）

イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す）

ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）

現代語訳

Q51. 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

小人役於物。
二 せラル
一 ニ

ア つまらぬ人は物を使う

イ つまらぬ人は物に使われる

ウ つまらぬ人は物より優れる

現代語訳

Q52. 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

氷寒於水。
二 ハ シ ヨリモ
一

ア 氷は水の中で寒い

イ 氷は水よりも冷たい

ウ 氷は水に冷やされる

書き下し

Q53. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

殺於敵。
二 サル
一 ニ

ア 敵に殺さる

イ 敵より殺す

ウ 敵を殺す

現代語訳

Q54. 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

苛政猛於虎。
ハナリヨリモ

ア むごい政治は虎のところで激しい

イ むごい政治は虎よりも恐ろしい

ウ むごい政治は虎に襲われる

書き下し

Q55. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

学而不思。
ビテハ

ア 学を思はず

イ 学びて思はず

ウ 学ぶも思ふ

現代語訳

Q56. 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

問於賢者。
フニ

ア 賢者より問われる

イ 賢者を問いつめる

ウ 賢者に問う

書き下し Q57. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

二 高 シ
於 ヨリ
一 山 モ。

ア 山に高し

イ 山を高くす

ウ 山よりも高し

現代語訳 Q58. 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

二 制 セ
於 ラ
一 人 ル。

ア 人を支配する

イ 人に支配される

ウ 人より勝る

書き下し Q59. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

二 生 マ
於 ル
一 乱 ニ
世。

ア 乱世より生まる

イ 乱世を生む

ウ 乱世に生まる

現代語訳 Q60. 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

三十
而
立。
ニシテ
ツ

ア 三十歳でひとり立ちする

イ 三十人が立ち上がる

ウ 三十年も立ち続ける

書き下し Q61. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

笑
於
衆。
ニ
ハル
ニ

ア 衆を笑ふ

イ 衆に笑はる

ウ 衆より笑ふ

現代語訳 Q62. 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

和
而
不
同。
シテ
レ
ゼ

ア 仲良くするが、なれ合わない

イ 和を乱して争う

ウ 仲が悪く、同調する

書き下し Q63. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

二 重 シ
於 ヨリ
一 鼎 モ。

ア 鼎を重んず

イ 鼎に重し

ウ 鼎よりも重し

現代語訳 Q64. 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

二 立 ツ
於
一 門 ニ。

ア 門より立つ

イ 門に立たせられる

ウ 門に立つ

書き下し Q65. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

二 破 ラル
於
一 楚 ニ。

ア 楚に破らる

イ 楚より破る

ウ 楚を破る

現代語訳 Q66. 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

二
一
深
於
海。
シ
ヨリ
モ

ア 海の中で深い

イ 海よりも深い

ウ 海に沈む

書き下し Q67. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

二
一
告
於
天。
ゲ
ニ

ア 天より告ぐ

イ 天を告ぐ

ウ 天に告ぐ

現代語訳 Q68. 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

二
一
用
於
国。
キ
ラ
ル
ニ

ア 国を用いる

イ 国に用いられる

ウ 国より優れる

書き下し Q69. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

ニ
敏
而
好
学。
レ ム
ヲ

ア 学を敏みて好む

イ 敏を学に好む

ウ 敏にして学を好む

現代語訳 Q70. 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

二
貴
於
金。
一 シ
ヨリ
モ

ア 金よりも貴い

イ 金の中で貴い

ウ 金に飾られる

書き下し Q71. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

二
隠
於
野。
一 ル
ニ

ア 野より隠る

イ 野に隠る

ウ 野を隠す

現代語訳

Q72. 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

欺^{カル}於^ニ人^ニ。
一

ア 人を欺く

イ 人に欺かれる

ウ 人より賢い

書き下し

Q73. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

猛^{ナリ}於^ニ火^ニ。
一

ア 火よりも猛なり

イ 火に猛なり

ウ 火を猛む

現代語訳

Q74. 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

学^{ビテ}而^ニ時^ニ習^フ之^ヲ。
レ

ア 学んで、適切な時に復習する

イ 学ばずに過ごす

ウ 学ぶ時間がない

書き下し Q75. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

ニ 仕 於 フ
一 魏 ニ

ア 魏を仕ふ

イ 魏より仕ふ

ウ 魏に仕ふ

現代語訳 Q76. 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

ズ
レ 必有師焉 リ

ア 必ず先生がいる

イ 先生は必要ない

ウ 先生を必ず探せ

働き Q77. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

ニ 厚 於 シ
一 前 ヨリモ

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

働き Q78. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

ニ 養^{ハル}
於^ニ
一 親。

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

働き Q79. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

ニ 戦^フ
於^ニ
一 野。

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

読み方 Q80. 傍線部の置き字の扱いとして正しいものを、後のア～ウから選べ。

死^{シテ}
而^ム
後
已。

ア 読まない（置き字。前の語に「て・して」を添える）

イ 「なんぢ（お前）」と読む

ウ 「しかれども」と必ず声に出して読む

現代語訳

Q81. 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

霜葉紅於二月花。
ハナリ
ヨリモ
二
一

ア 霜の葉は二月の花の中で赤い

イ 霜の葉は二月の花に染められる

ウ 霜にあった葉は二月の花よりも赤い

書き下し

Q82. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

苛政猛於虎。
ハナリ
ヨリモ
二
一

ア 苛政は虎に猛なり

イ 苛政は虎よりも猛なり

ウ 虎は苛政よりも猛なり

置き字

Q83. 次の文の傍線部（置き字＝読まない字）の種類を、後のア～ウから選べ。

君子泰而不驕、小人驕而不泰。

ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える）

イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す）

ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）

現代語訳

Q84. 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

君子和而不同。

ア 君子は争って同調する

イ 君子は同じものを好む

ウ 君子は協調するが、付和雷同しない

置き字

Q85. 次の文の傍線部（置き字＝読まない字）の種類を、後のア～ウから選べ。

積ミテ土ヲ成セ山バ、
風ヲ雨ヲ興ル焉。

ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える）

イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す）

ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）

現代語訳

Q86. 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

勞スル力ヲ者タ治ラル於ニ人ニ。

ア 体を使う者は人を治める

イ 体を使う者は人に治められる

ウ 体を使う者は人より働く

置き字 Q87. 次の文の傍線部（置き字＝読まない字）の種類を、後のア～ウから選べ。

力^ハ拔^キ山^ヲ兮^ハ氣^フ蓋^ヲ世[。]

ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える）

イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す）

ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）

書き下し Q88. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

君子^ハ求^メ諸^ヲ己^ニ、小人^ハ求^ム諸^ヲ人^ニ。

ア 君子は己を求め、小人は人を求む

イ 君子は諸を己に求め、小人は諸を人に求む

ウ 君子は人に求め、小人は己に求む

現代語訳

Q89. 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

氷
レ
水
為
之
而
寒
於
水
。

ハ
シ
テ
ヲ
シ
ヨ
リ
モ

ア 氷は水の中で固まる

イ 氷は水がこれを作るが、水よりも冷たい

ウ 氷は水に冷やされる

置き字

Q90. 次の文の傍線部（置き字＝読まない字）の種類を、後のア～ウから選べ。

我
レ
欲
仁、
斯
仁
至
矣。

ス
レ
バ
ヲ
ニ
ル

ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える）

イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す）

ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）

働き Q91. 傍線部「於」のはたらきとして最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

二 青 於 藍。
一

ハ
シ
ヨ
リ
モ

ア 場所・対象（～に・～で・～を）

イ 比較（～より）

ウ 受身（～に…られる）

書き下し Q92. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

二 雖 千 万 人、
一 吾 往 矣。

モ
ト
カ
ン

ア 千万人と雖も、吾往かん

イ 吾は千万人に往かる

ウ 千万人を雖も、吾往く

忠言逆於耳而利於行。
ラハドモ ニ
 一 ニ
 アリ ヒニ
 一

ア まごころからの忠告は耳に心地よく、行いをよくする

イ まごころからの忠告は耳に痛い、行いのためになる

ウ まごころからの忠告は行いにさからう

己所不欲、勿施於人。
ノ ロ
 レ ル セ
 レ カレ ス
 ニ
 一 ニ

ア 己の欲せざる所、人に施す勿かれ

イ 己の欲する所を人に施せ

ウ 人の欲せざる所を己に施す勿かれ

現代語訳

Q95. 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

過チテ而ル不改メ、
是レ謂ヲ過フ矣チト。

ア 過ちて改めないこと、これを本当の過ちという

イ 過ちは改められない

ウ 過ちを改めれば過ちでない

書き下し

Q96. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

学ビテ而レバ不思ハ則チ罔シ。

ア 学を思へば則ち罔し

イ 学びて思はざれば則ち罔し

ウ 思ひて学ばざれば則ち罔し

千里之行、
始於足下。

ア 千里の旅も足もとから始まる

イ 千里を足で測る

ウ 千里の道で足を止める

敏而好學、
不恥下問。

ア 接続の字（而。前の語に「て・して／ども」を添える）

イ 前置詞（於・于・乎。場所・比較・受身などを示す）

ウ 文末・句調の字（矣・焉・兮）

現代語訳

Q99. 次の漢文の現代語訳として最も適切なものを、後のア～ウから選べ。

防民之口、甚於防川。
二
一
二
一

ア 民の口で川を防ぐ

イ 川が民の口に流れ込む

ウ 民の口をふさぐのは、川をせき止めるよりも危険だ

書き下し

Q100. 次の漢文の書き下し文として正しいものを、後のア～ウから選べ。

朝聞道、夕死可矣。
レ
二
一
二
一

ア 朝より夕べまで道を聞く

イ 朝に道を聞き、夕べに死す

ウ 朝に道を聞かば、夕べに死すとも可なり